

(2) 2組 授業をミクロな視点で見て 「ばんごはんをきめよう」

1 実践のねらい

授業の場面をよりミクロな視点で見ていくことで、教材の選定や教師の支援、特に教師の発問や児童の反応はどうかなど、授業づくりの問題点を浮き彫りにしていくために 2組では授業のビデオ分析をおこなった。以下に、話し合い活動を中心とした授業のビデオ分析とその考察をあげる。

① 2組の実態

- ・ 3年生 2名、4年生 4名、計 6名の複式学級（担任 2名）。授業の当日は 1名欠席。
- ・ てんかん、ダウン症候群、染色体異常と様々な障害を持ち、また個々の個性も豊か。
- ・ 発達段階は 2：2（自我の拡大期）から 3：8（自制心の芽生え）と幅広い。
- ・ 6人とも人と関わるのが好きで、ごく簡単な言葉であればほとんどの児童が理解できる。
- ・ 発達的に自他の分離ができない児童もあり、着席行動がとりにくかったり、気持ちの行き違いから友だちとのトラブルが発生したりすることも多い。

② 方法

据え置きビデオで授業の様子を記録し、そのビデオをもとに教師の発問や児童の反応等を細かく拾いおこして、複数の教師で問題点を考察した。

○日時 平成 9年10月 8日（水）

○場所 小学部 2組教室

○単元名 生活単元学習 「わくわく宿泊」

○題材名「ばんごはんをきめよう」

○題材の目標

- ・ 自分たちの晩ごはんを自分たちで決め、宿泊を楽しみにする。
- ・ 自分なりの表現の仕方で、思っていることを先生や友だちに伝える。
- ・ 少し考えたり葛藤したりしながら、少しは友だちの気持ちを考え、話し合いに参加しようとする。

③ 教師の基本姿勢

- ・ 発達の幅が広いので、どの児童も話し合いに参加できるよう、言語以外のアプローチ（視聴覚に訴える教材、身振り等）を多く取り入れる。
- ・ できるだけ、教師は言葉を精選しながらゆっくり話し、児童の思いが出るまで待つように心がける。
- ・ 児童の反応をよく見ながら気持ちをくみ取り、個に応じた支援をする。



「わたしは、うどん！」と指さすR子

2 授業の展開（記述部分は 7分40秒）

教師(チーフ)の発言・(行動)	児童・教師(サブ)の発言・(行動)	分 析
<p>はーい、さーじゃあ、エプロンつけていこうかなー。(エプロンをつける)</p> <p>さーて、ジャスコから帰って来たし、これから晩ごはんにしましょうよー。</p> <p>ねーっ</p> <p>さて、晩ごはんの準備なんだけど……</p> <p>おや？(おおげさに驚いて)</p> <p>そう！晩ごはん、何食べるんだっけー？</p> <p>あれ、おととととととー</p> <p>ねえ、晩ごはん、決めたっけ？</p> <p>Uくん知らんって言ってる。</p> <p>晩ごはん・・(S子を見て)</p> <p>知らんなあ</p> <p>-----省略1分15秒-----</p>	<p>↓(サ) じゃ、本城先生呼んでみようかな。</p> <p>↓(A子) さんはい。</p> <p>↓(サ、A子、U、S子) 本城せんせいー。</p> <p>→(サ) あらー、お母さんみたい！</p> <p>←(明) ああー(うれしそうに)。</p> <p>→(サ) はい。</p> <p>→(A子) エプロンがない。Aちゃん、明日もってきてって書いてある。</p> <p>→(サ) えー</p> <p>←(A子) おとととと</p> <p>→(A子、サ) では、ありませーん。</p> <p>→(明) しらんー</p> <p>←(A子) きめてない。</p> <p>→(S子: うなずく)</p>	<p>・児童の興味を引くようエプロンをつけて登場した。多くの児童の視線が集まった。</p>
<p>みんなで作れそうな晩ごはん、何が食べたいですか？</p> <p>もっかい、教えて。</p> <p>もしかして、カレーってこれ？</p> <p>じゃーん (絵を見せる)</p> <p>すみません、セロハンテープ、貸してもらえますか？</p> <p>ねえ、ねえ、みんなはカレーライス作ったことあるの？</p> <p>そう。</p> <p>じゃ、お泊まりの時に作ろうと思ったら作れるかもしれないねー。</p> <p>ねえ、ねえ、でも他のものでもいいのよ。</p> <p>サラダ、すてきねー</p> <p>もう一つ、それから、前に食べたいって言ってた……白ーい、長ーいめんを、つつるって(食べるまねをしながら)……たしか今日も食べたー、おいしいの、なんだっけ。給食に出たの。</p> <p>あー、汁にはいったー、かまぼことか入ったーながーいの。ふう、ふう(食べるまね)つつるって。今日は明がはいってたの。(「う」の口型をしてみせて)</p> <p>ちょっとSちゃんも、言ってみて？(明に向かって)ちょっとSちゃんにも聞いてみるからね。(「う」の口型をしてみせて)</p> <p>S子の前に「う」を差し出して)</p> <p>う・どん</p> <p>うどんねー。</p> <p>-----省略38秒-----</p>	<p>→(明) カレー</p> <p>→(明、明、A子) カレー！</p> <p>↓(R子:手をたたく)</p> <p>→(明) うん。</p> <p>→(A子) カレー</p> <p>→(サ) あー、おいしそー</p> <p>→(サ) いいですよ。(セロテープを渡す。)</p> <p>→(A子) 作ったことあるー。</p> <p>→(明) ぼくなー、作ったでー。</p> <p>→(A子) やったー。</p> <p>→(サ) やったー。</p> <p>→(A子) サラダ</p> <p>↓(明) サラダ</p> <p>→(A子) する。</p> <p>→(A子) するー！</p> <p>→(A子) する、するー！</p> <p>→(明) 先生、Aちゃんが何か言ってるよ。</p> <p>→(A子) みそ</p> <p>→(明) うどん</p> <p>→(S子) う・・</p> <p>→(明) う・どん！</p> <p>→(S子) うどん</p> <p>→(A子) うん！</p>	<p>・一部の児童の発言が多くなるので、同じことばを繰り返しておとなしい児童も発言できるようにした。</p> <p>・子どもたちから出そうな意見の絵カードを、あらかじめ数種類準備しておいた。絵カードを出すと、どの児童も注目した。</p> <p>・「他のもの」という教師の問いがわかりにくかった。A子はカレーに添えるものとして、サラダを提案したようだ。</p> <p>・複数の中から悩んでメニューが決められるように、カレー以外のものを教師が提示した。うどんはクラス全員が好きなメニューの一つである。</p> <p>・A子は自分の意見が取り上げられないため、いらいらしているようだ。</p> <p>・口型のモデリングは効果的だった。</p> <p>・S子が言いかけたが、明が横から大きな声で言ってしまった。明に待つように話して、再びS子の意見を促した。S子は少し待ちながら口型を示すと、少し自信を持って言えた。</p>
<p>ちょっと悩んじゃうね。(2枚の絵を出して)</p> <p>じゃんじゃん、こっちがー カレー、</p> <p>ライス。</p> <p>こっちがー うどんでいいかな</p> <p>う・どん</p>	<p>→(みんな)カレー！</p> <p>→ ライス！</p> <p>→(みんな)う・どん！</p>	

さあ、みんなに聞いてみようかなあ。
 (C男に向かって)あーちょっと、ちょっとコックさん。

(C男:椅子からおりて、寝ようとする)
 (サ) はい、ごめんね。(床に座ったままでC男の後ろをサブが支え、床に座りやすい足に直す。)
 (明:まねをして床に座ろうとする。)
 (サ) Uくん。あらUさん、Uさん、Uさんはいいよ。(明をかかえて椅子にもどす)
 (Cくんは)ちょっとつかれたみたい。お話を聞いてねー。

Aさんは、どっちを作って食べますか?(絵を差し出して)
 どっちにしよう、どっちにしよう(一緒に悩むふり)悩んじゃうねー。どっちか一つしか作れませんよー。
 これですか? Aさんはカレーです。
 ちょっとまってね。
 Rちゃんはどっちが好き?
 Rさんはう・ど・ん
 Sさんはどっちにする?
 どっちにしようかなー。指でポンってして。
 カ・レ・ー
 Uくんは?
 カレー
 Cくんは?
 う・ど・ん

決まりましたー。カレーが3人、うどんの人が2人です。さあ、どうしようかな?
 Yくんは、..カレー選んだ人の方が多んだけど、カレーでもいい?カレーも好き?
 じゃあカレーにしようか。
 Rさんも、じゃがいも入れたり、お肉いれたりしてカレー作ってみる?
 (絵を差し出して)ねえ、カレー作ってみる?どうしてもこっち(うどん)のほうがいいかなー。
 Rちゃんはーうどんが好きー?
 あ、たまごー? たまごが好きなのねー。
 じゃ、カレーにたまご、乗せる?
 うどんにたまごが入ったのが好き?
 そーうかあ。
 (A子をなだめて)はいはい、ごめんねー。
 みんなーどうしようかー。Rさんはどうしても、うどんが食べたいんだってー。
 どうしたらいいと思う?
 どうしよう。こまっちゃったね。
 (A子の席をR子から少し離す)
 先生はどっちも好きなの。だから先生どっちでもいいけど、そうだなー。
 Aちゃん、どうしたらいいと思う?
 (カレーの絵をみせて)..にする?
 こっちでもいいの?
 Rちゃん意見がかわったのかな?
 カレーでもいいの?
 Rちゃんはうどんが食べたかったんだけどカレーでもいいよ、だって。

(A子:両方指さして、少し悩む)
 (A子) これです。(絵をつまんで)
 (明) カレー
 (R子:うどんを指さす)
 (S子:両指をくるくるさせながら悩む)
 (S子:カレーを指さす)
 (S子) ..レー(にここにこして)
 (明) 明はー(カレーを指さす)
 (C男:うどんを指さす)
 (C男:うなずく)
 (サ) ありがとねー(C男の肩をたたいて)
 (R子:ぼかんとしている)
 (R子) いけん(立ち上がりうどんの絵にぎって何度も指さす)
 (R子:うどんの卵を指さす)
 (R子) いけん!
 (R子:うどんを指さす)
 (A子がR子の頭をくしゃくしゃにさわる)
 (サ) Aさーん、Aさーん。
 (サ) あーそうか、困ったねー。
 (明) はんぶん。
 (A子がR子の髪を触る)
 (サ) でも、いやっていうお友だちがあったら、困っちゃったねー。
 (A子) ラーメンはありません。
 (R子:カレーを指さす)
 (R子:カレーを指さして)がいい。
 (サ) ああ、そうですか。
 (R子:カレーを指さす)がいい。
 (サ) そうか。

・C男は姿勢保持がづらくなった。
 ・サブは、C男の気持ちを受け入れ、床に座って学習に参加する態勢を促した。
 ・明も関わってほしくて、C男をまねて床に座ろうとしたようだ。
 ・サブはC男が疲れていることをR男に伝えようとした。

・明は、早く言いたい様子。順番があることを伝えた。自制心の芽生えの時期である明は、理由がわかれば待つことができた。
 ・気持ちを表出させるまでに時間のかかるS子に対しては、じっくり待つことが必要だった。

・児童が少し疲れてきたのを感じ、教師はあせってやや早口になった。
 ・解決法を児童と一緒に探りたかったが、教師が少数派の児童の説得に初めからあたってしまった。
 ・教師は、何とかR子の気持ちが変わらないかとあせり、自分の考えを一方的に押し付けようとしていた。

・A子はR子が困らせていると勘違いして髪を触ったのかもしれない。話が進まずイライラしている様子。
 ・明の「はんぶん(ずつ)」という新しい解決法を、聞き逃してしまった。生かせば新しい話し合いの糸口になったはずである。

・A子は質問の意味がわからなかった。
 ・突然R子の意見が変わり、カレーでいいと言い始めた。教師と1対1では自分の意見を主張するだけだったが、友だちの様子を感じて譲ったのかもしれない。特に嫌そうな

先生も今、カレーうどんにしようかって、ち → (男) セーフ
 っとあせてたんだけど、ねえ。
 うん。
 じゃ、カレーライスでもいいですか? → (R子) いい
 ↓ (A子) いいです!
 よかったあ。 → (サ) よかった。ありがとうRさん。
 わかりましたー。 → (S子) ありがとうー(R子の頭をなでる)
 ↓ (A子) あははは……(R子の頭をなでる)
 じゃあ決まりました。ジャスコから帰って来
 て、食べる晩ごはんは……カ・レー。 → (S子、A子、サ) カ・レー

表情でなく、R子なりに納得したよ
 うだ。
 ・R子がカレーに合わせてくれたこと
 を他の児童も感じて、お礼を言っ
 ていたようだ。

3 考察

○題材や教材の選定

- ・「晩ごはん」という題材は、イメージしやすく必然性があるため、どの児童も話し合
 いに興味を示すことができた。
- ・絵や具体物の提示をすることにより気持ちが盛り上がりやすく、また、言語の未発達
 な児童も理解しやすかった。

○教師の支援

- ・教師の気持ちが焦ると、言葉が長くなったり速くなったりしてしまった。ポイントを
 押さえ精選した言葉を用いて、児童の反応を確かめながらゆっくりと話すことが大切
 だった。
- ・児童の小さなつぶやきを見逃していた場面があった。どの児童にも気を配りたい。ま
 た、反対に、児童の表情やわずかな口の動きを見逃さず、気持ちをくみ取って声かけ
 をすることにより、発言を促すことができた場面もあった。
- ・ゆっくりとおとなしい児童に対しては、反応を十分に待ち、じっくり考えられる言葉
 かけが効果的だった。その際、気のあせりがちな児童が待てる工夫が必要だった。
- ・発問の順番や待ちの時間、教師の立つ位置、視線等の配慮を、集団の中における一人
 ひとりの個性や発達特性に合わせて行うことが大切であると感じた。
- ・場に合わない発言をした児童にも、意欲が損なわれないよう気持ちをくみ取って支援
 することが必要だった。
- ・席の並び順などの人間関係上の配慮や、児童が安定した心情で学習に向かえる環境づ
 くりが大切だった。

4 実践を終えて

ビデオで細部を客観的に確認していくと、教師の見落としや思い込みがいかに多いかと
 いうことを実感させられた。そして、教師自身の支援の課題も明確になった。児童の思考
 の揺れや葛藤もよく伝わってきた。同時に、自己中心性の強い発達段階にいる複数の児童
 の要求に応じながら、臨機応変に対応して学習を進めていく難しさを感じた。行動特性や
 発達段階における心理特性を理解してとっさに適切な対応がとれるよう、きめこまかな視
 点で子どもたちを見つめていきたい。今回の反省点を今後の授業づくりに生かしながら、
 さらに題材の選定と支援の工夫を探っていきたい。 (本城幸子)